

浄土

monthly
JŌDO

January 2001



法然上人鑽仰会

21世紀もしやべったる。

OK!

市外も、国際も、
インターネットも、
携帯も、
日本テレコム。



●お問い合わせはお客センターへどうぞ ☎ **0088-82** (無料) (受付時間) 9:00~21:00 (年中無休)

●インターネットホームページ <http://www.japan-telecom.co.jp/>

寺院紀行

寺に歴史あり。
人々に信仰あり。
日本の
心の故郷を紀行する。

栃木・益子

圓通寺

圓通寺本堂（下）と圓通寺第五十八世大島良彦住職、とみ子夫人、そして完之副住職



圓通寺内陣。本尊は阿彌陀如来座像。また県の有形文化財指定で、同寺開山の良栄上人の善光寺式阿彌陀三尊（一光三尊仏）も安置されている



山腹のそびえる伽藍は樹木に囲まれている。手前右は地域用防火用



境内奥には歴代上人の墓が並ぶ。
中央の廟が開山上人の墓



圓通寺開山の良栄上人像。胎中に
上人自作の秘仏が納められてい



名越流の開祖。尊観上人像



戦後すぐから社会福祉に取り組んだ
圓通寺。写真は保育園と老人ホーム



圓通寺第五十八世、大島良彦住職。
大柄な住職はその話ぶりも豪快で、
かつ繊細だ

書院奥の庭園。この上に開山堂を建立するのが住職の夢のひとつである



浄土

2001/1月号 目次

カラーグラビア 栃木・益子 圓通寺	タカオカ邦彦	1
式子内親王の八百年遠忌にあたって	石丸晶子	6
鼎談「情報化時代の寺院」		14
表紙の言葉		23
寺院紀行 圓通寺	真山 剛	24
響流十方	小村正孝	34
新連載「くすり箱」	市川真人	38
コラム「浄土宗と浄土真宗」		46
Jフォーラム		47
浄土誌上句会	選者＝増田河郎子	48
マンガで楽しい仏教用語	藤井ひろし	51
編集後記		52



表紙題字＝浄土門主 中村康隆宛下
表紙撮影＝芝崎慶三
アートディレクション＝近藤十四郎
協力＝迦陵頻伽舎

式子内親王の
八百年遠忌に
あたって

石丸晶子

二〇〇一年一月二十五日は、式子内親王が浄土に歸られてちょうど八百年の大遠忌にあたります。

その住まい大炊殿^{おおいどの}で重態におちいった内親王は、心の闇にとざされ、往生をうたがひ、法然さまとの再会を求めてお手紙をお書きになったらしいのです。

そのお手紙に対する御返書が「正如房につかわす御文」として現代につたわる法然さまのお手紙ですが、今、あらためて読み返してみても、そこにこもる愛といたわりの心の深さ、また内親王の要請にこたえてその枕許にかけつけないうことを、御自身にも言いきかせておられるような法然さまの深い吐息に、私自身巻きこまれていく感動を覚えました。

内親王は東山の庵室から弥陀のもとに立ちのぼる、法然さまの念仏の声に送られて、たしかに、浄土にお歸りになったに違いありません。

——この上は、今よりのち一念も残さず、ことごとくみな、あなたの往生の助けとなろうと発願し、そのように廻向させて頂きたく、必ず必ず、何としても思召しのままに、あなたが願われるとおりの往生を遂げさせ申さずにはおかないと、深く深く念じております。わたくしのこの志がもしもまことであるならば、どうしてこの一念が、あなたの往生の助けとならぬわけがありません。頼みとされて然るべきと存じます。——

（正如房につかわす御文）

梅原猛先生が最近書き下ろされた大著『法然の哀しみ』で述べておられますように、往生はただ弥陀の本願によるとお手紙の中で法然さまは説かれつつ、それでもなお、右のようないくつかの一文もお書きにならずにはいられなかったのです。法然さまのお心の奥の奥に秘められた内親王への愛の一念が、法然さまに右のおこばを記させたのです。

それにしても、法然さまの念称の声に送られて浄土に旅立つとは、何と内親王は幸せな方なのでしょう。

二

お二人が出会われたのは恐らく元暦から文治にかけて、法然さま五十代の初め、内親王は三十代の半ば頃。

御返書のなかで法然さまは、あなたとわたくしは初対面の日から、ただきつきつと同じ仏の国に共に行って、互いに助け合い、未来世で人々の教化に力を尽くそうと語り合った、と回顧しておられます。

今に残る法然さまのお手紙の中で、共に手を携えて互いに助け合い人々の教化に心を尽くそうとのおことばを頂かれた方は内親王を置いて他にありません。

お二人は初対面にして互いを見抜き、互いを知ったのだと思います。
内親王にこんな歌があります。

浮き雲を 風にまかする 大空の

行方もしらぬ 涯はてぞ悲しき

始めなき 夢を夢とも 知らずして

この終りにや 覚めはてぬべき

いずれも、抒情詩である短歌に、大宇宙の神秘、大宇宙の沈黙、を前にした人間の、存在の不安が詠じられています。

ここで式子は、大空を流れただよう雲のゆくえが知れぬのを悲しいといい、無明長夜の世界の真相に、死ぬときは悟達できるだろうか、と問うている。歌の調べは世事のくさぐさを越えて丈高く、詠じられた存在の不安には内親王の実感がこもっています。

彼女はそんな内的世界をもち、こんな歌を詠じる女性でした。

時は生死無残の乱世です。身のまわりに死が累積していくなかに置かれて、道を求め、光を求めていた女性だったと思います。今に伝わる三九九首の歌が、これを証していると私は思います。

この内親王が、やつと法然さまにめぐり会ったのでした。

内親王の懺悔をきかれた法然さまは、御自身の二十五年におよぶ求道の歳月に思いをはせられたのではないでしょう。後年法然さまが、「道に迷い、寝食も安らかにできぬ苦悩の日々を送った」と往時をふり返ってお弟子たちにおっしゃったことを、諸々の伝記がしるしていることはよく知られています。

お二人は互いを知り、互いを理解し、であるからこそ、御返書にみる法然さまの、「私たちは初めてお会いしたときから——」というあの回想があつたのだと思います。

法然さまに出会う以前と以後とで、内親王のお歌が、月並みから命輝く秀歌へと、変容していったのは当然のことであつたでしょう。

私は内親王に、恋する女の心理と苦しみを教えたのは藤原定家でも平家の公達でもなく、法然さまをおいて他にないと思っております。内親王は法然さまによって、恋というもの

を心の中で想像しているところから、実際に恋する女の心理と苦悩を知ったのだと思います。多くの評家が述べているように、内親王の歌には惻々と人の心を打つ真率さがあり、恋をしらぬ女が恋を仮想して詠じた性格のものでは決してありません。

思ふより 見しより胸に 焚く恋の

けふうちつけに 燃ゆるとや知る

知るらめや 葛城山かつらぎやまに ゐる雲の

立ち居にかかる わが心とは

「燃え上がったことをぞんじだろうか（燃ゆるとや知る）」、「知つておられようか（知るらめや）」、と右の歌は二首ともに、わが心を知らぬ相手に向かって訴える形をとっています。

そして十数年、御返書を読むと、内親王はときに法然さまと対面して教えをうけ、またたびたび侍女をつかわして法然さまの安否を尋ねさせていたようです。

しかし、相手が法然さまである以上、内親王の恋が実を結ぶ筈はありませんでした。

内親王は忍ぶ恋の苦しみを歌に託しつつ、そして晩年のお歌には、諦念を感じさせる歌も詠まれるようになっていきます。

三

しかし、病篤く最期るときが迫ったのを自覚したとき、再び内親王は、心の闇の中で法然さまを呼び求められました。心の闇とは、あきらめきれぬ煩惱の闇であり、死への恐怖、そして往生への不安であつたでしょう。

御自分を呼び求める内親王の声をきかれた法然さまは、一瞬、枕辺に駆けつけようとなさいました。

しかし、思い止まれたのです。

——よくよく考えてみれば、この世での対面はどうでもよいこと。なまじ枕辺に駆けつければ、内親王には却つて煩惱を深めさせ、法然さまのうちにも、内親王の亡骸に執着する心の迷いが生じるであらう——。

かくして、大炊殿に赴かぬ代りに、法然さまは説き去り説き来たり、愛とやさしさといたわりにみちた長いお手紙を書いて使者に託されました。

それは、信仰と一人の男性としての愛をとともに封じこめたような御文で、私は「黒田の聖人につかわす御文」と並ぶ、法然書簡文中の白眉と考えております。

以前、私は現存する法然さまの全書簡と、常日頃仰せられた御言葉のいくつかとを現代語に訳し、またその御生涯を「なむ・ブックス」の一冊として書かせて頂いたことがあります。

そのとき、筆を進めるにつれ、突き当たっていったものは、時代に卓越した聖者の孤独とでもいうべきものでした。

人は、他者との對話を求め、互いに理解しあう友を求めます。しかし卓越した人物には、彼と同じ水準の心と精神と意志の力をもった人物がたやすくいるわけはありませんから、心の友を見出せぬ孤独が常につきまとうのではないのでしょうか。

あのとき、そして今も、法然さまの御生涯を辿るときいつも私が感じるのは、この、卓越した聖者の孤独です。

内親王との出会いは、法然さまの心の窓辺に咲いた一輪の花であつたと思います。

しかし、しかし、「武士と上人とは、多く最後にいたって恥辱をさらすものだ」（常に仰せられたことば）と常日頃仰せられていた法然さまは、この花にあまり近づきすぎることの危なさを知っておられたに違いありません。人間の身の弱さを熟知しておられたのです。自己をふくむ人間を過大評価したり過信することはなさいませんでした。

内親王の枕許に駆けつけてあげたらよかったのに、という人もいますが、私は法然さまを見事だと思えます。そして内親王にとつても、対面するのではなくて愛といたわりのこもるお手紙を頂かれることが最もよいことだったのです。

法然さまは御自分を甘やかさず、過信せず、そして内親王をも甘やかさず、過信せず、お手紙にあるとおり「浄土での再会」に一切を託されました。

済民救済の宗教者としてのお姿であり、法然さまは信仰のなかに内親王への愛を昇華されたのです。

われはただ ほとけにいつか 葵草

心のつまに かけぬ日ぞなき

法然さまの御歌です。浄土で待っている内親王への愛が歌となっているのではないでしようか。

ほどなく法然さまの八百年大御遠忌が近づいて参ります。

未来世では、共に助け合つて人々の教化に努めようと約し合われる程、内親王と強い絆で結ばれた法然さまが浄土に歸られた日が、内親王と同じ一月二十五日であるということ
は、当然のことかもしれません。

瀬戸内海に浮かぶ生口島の光明坊には、少くとも江戸時代初頭にまで溯る記録があり、そこには法然さまと内親王との清純な人格的愛の物語が記されております。

(東京経済大学教授)

新春鼎談

情報化時代の 寺院

第1回

今岡達雄

青木照憲

真野龍海

司会 本誌編集チーフ 長谷川 岱潤



時代はいよいよ二十一世紀に突入した。

二十世紀後半「情報化時代」という言葉が乱舞し、時すでにIT革命なる言葉が公然と首相の口からも飛び出し、国会でも論じられる時代となった。

現代の日本社会では、携帯電話は若者をはじめ誰もが持つ時代となり、コンピュータを介したメールやインターネットのやり取りは、日常生活の中で誰もが使うあたり前のような時代になってきている。今や企業では、コンピュータでのメールができなければ、上司からの指示を聞くことさえできなくなり、メールやインターネットは主婦のあいだでも大流行しているのが現状である。

寺院においても、この情報化の波を無視していられる時代は、もう長くは続かないと思つたほうがいいのかもしれない。そんな時代の今、いち早くコンピュータを導入し、時代の波に乗っていらつしやる方々にお話を伺うことにした。

この情報機器の魅力、そして問題点。便利な陰で無くしたものは何か、時代の動きの中で今、人間に、そして我々僧侶に求められているものとは何か。これからの寺院活動のあり方などを提示できたらと考え、すでに独自のホームページをお持ちの三上人にお集まり頂き話し合つて頂いた。二回の連載でお伝えする。

今岡達雄

(千葉・善照寺住職・五十二歳)

三菱総合研究所の研究員として、長年インターネット関連の調査、インターネットが今後どのように普及してゆくかということの研究していたとのこと。一九九五年住職専業となるために退社し現在に至る。

ホームページ開設は一九九五年十二月。

ホームページの主な内容は、仏教や浄土宗、寺に関するあらゆる質問に答えることから、懺悔室、相談室という二つの部屋を作り、人生相談をしている。

顔がまったく見えない対話だけに、相談内容と答えを提示し、こういう答えをする者だとわかるようにしていることが、信頼感を得ているのでは、と語る。

青木照憲

(東京・西蓮社住職・五十二歳)

建築会社を経営していたこともあり、若い人達と交わることが多かったこと、また機械いじりが大変好きで、機械に対する興味がとても強く、また時代に乗り遅れないようにしたいという思いからコンピュータに興味を持った。

ホームページ開設は一九九七年十二月。

インターネットに興味を持ったのは、たまたま衝動買いをした機種にモデムがついていて、電話線につないだときネットサーフィン「掲示板」で、すぐに仲間ができたことから、夢中になったとのこと。

ホームページの中は、寺の由緒、つまり西誉上人のことなどを書き込んでいる。

真野龍海

(東京・天光院住職・七十八歳)

梵文学の研究という仕事以外に、俳句やコーラス、油絵と大変多趣味であり、そんな仲間とのやり取りもあって、ホームページを一九九九年七月に開設した。

ホームページは、お寺のニュースや歴史から、参考になるような氏自身の論文、そして俳句教室、文化教室、コーラスやギョラリと多種多様とのこと。

実はホームページ維持運営に関しては、サポーターとして若い人に時々来てもらい、助けてもらっているとのこと。

インターネットの現状

司会 昨年十一月に森首相はIT革命戦略構想なるものを発表され、来るべくIT化の時代、情報化時代に備えるよう指示を出されました。ITなどという言葉はまだ私にはなじみ薄いのですが、皆さんがお感じになつているところでは、どんな感じなのでしょう。

青木 現在インターネットの普及率が30%位と言われています。しかし統計によつては数値が一〇〇〇万人位違ってしまつています。うですから、はっきりとは言えないようです。

とはいえ三〇〇〇万人から四〇〇〇万人位の方が、何らかの形で利用していると考えていいでしょうね。釣り人口が八〇〇万人、ゴルフ人口が一〇〇〇万人ですから、インターネットは今やメジャー中のメジャーといえるでしょうね。

今岡 少し前までは、インターネットを利用する人は限られていましたから、当初は不特



今岡達雄氏 <http://www.bekkoame.ne.jp/~imaoka/>

定多数を対象とするホームページしか存在しませんでした。ですが普及率が30%を越えたことによって、接続できる人が多くなり、たとえば企業がその人たちを対象にビジネスをする、物の売り買いやオークションなどが可能になったのです。

今や大企業に勤めをしている人で、メールアドレスのない人はいませんよ。

真野 大正大学ではまだなのですが、工学院大学などでは入学と同時にメールアドレスがもらえるそうです。しかもパソコン機器が市価の6割位で買えて、購入するとその中にはすでに大学につながるデータベースが入っていて、大学のあらゆる情報が取り出せるのだそうです。

今岡 現在多くの大学では、レポートの提出はみんなメールで行われていますよ。

インターネットの魅力ってどんなこと

司会 もうすでに状況はそこまで進んでい

るのですか。想像以上ですね。今更こんな質問も何ですが、そこまで人々が飛びつく魅力というのは何だと思いますか。

今岡 インターネットの一番の魅力は、ありとあらゆる種類の情報が、居ながらにして、得たいときに、そして瞬時に入手できる点でしょうね。

真野 私もこの間、講習会で「往生」について話することになって、前の晩に他の宗派ではどう見ているのかなという疑問が起きまして、早速全日仏のホームページで各宗派を調べたのです。そうしたらわかったのですが、浄土宗以外の他の宗派では目的がすべて「往生」ではなく「成仏」なのです。何ともお恥ずかしい話ですが、この歳になって初めてわかったのですよ。浄土真宗でも「往生して成仏します」なんです。

そこで今度は『選択本願念仏集』で「衆生の成仏」を検索したところ、二か所しか出てこないですね。それから浄土宗のホームページ

ージを見たのですが、ここには一か所も「成仏」は出てこない。浄土宗の規則をみても出てこないのです。不思議な気がしましたね。

青木 私はよくアメリカからコンピュータの部品を購入します。こんなこともネットだと気楽にできるんです。

今岡 しかし日本人は英語が得意じゃない民族ですから、海外との通信というと、言葉の壁があるので敬遠される方が多いのですが、最近は海外で暮らす日本人が大変多いので、そういう意味では世界中に発信できる地域は広がっているんですね。

真野 そうなんですね。昨年、ハワイの元総監をしていた新保さんがお病気になる、その息子さんを通じてメールでのやり取りが始まったのです。そのうち本人とも直接発信したのですが、通信が来なくなりどうしたかなと思っていたら、七月に八十八歳でお亡くなりになったとのことでした。最後の最後まで発信ができたこと、私も、また本人も喜んで



青木照憲氏

<http://www.ne.jp/asahi/u-ruk/common/2world/ooh/lyu.html>

いたのではないかと思いましたがね。

今岡 私の相談室にも、ドイツ在住のご婦人からの相談がよく入ります。ドイツ国内では相談する人もなくさみしかったとのこと、画期的なことだと思えますね。日本語を母国語とする人が、世界中にいるということなんです。

この間もアメリカに留学している息子とメールで交信を始めて、家にいたときよりも会話が多くなったとおっしゃるご婦人もいましたよ。

青木 私の知っている親子は群馬と東京なんです、誰も知らない秘密の掲示板を開設して、それでやり取りしているそうなんです、親と子では起きている時間帯にかなりずれがあるようで、そこは電話と違い自分の都合のいい時に打ち込んで、自分の都合のいい時に読めるという利点がありますから、お互いの拘束も距離感もなくなり大変喜んでいました。

司会 他に魅力的なところはありますか。

今岡 そうですね。同じ趣味の人、同好の人を見つけ出すのには優れていますね。

青木 人と変わった趣味を持つ人というのは、以前肩身が狭かったのですよ。近所や友人の中に同じ趣味の人がいなかったりすると、とてもさみしいものだったんですね。時には変人扱いされたりとか。でも今ではインターネットで呼びかけますと、全国、いや世界中からその呼びかけに答えてくれるのですね。これは嬉しいですよ。

今岡 そうですね。そういうことというのはインターネットじゃないとできないことですね。それにホームページを開設すると、不特定多数を対象にした情報発信が可能だということですね。そして自分が宣伝、広報、啓蒙を気軽に発信できるということです。また双方向、ネットを通してお互いの情報交換が手軽にできるということだと思います。

司会 他にはどうでしょう。

真野 それに何よりも、情報化の進展に後れをとらないための道具として、なくてはならないものですよ。

今岡 本当は一番にあげたいことなんですが、楽しく時間を消費できるってことですね。情報を手に入れるということは知的好奇心です。何か言葉があつて、それではこの言葉に関連して何があつてというふうに、知りたいことを知ろうと思えばどんどん先に進んでゆくことができますから、どんどん時間を使ってしまうんですね。つい夜更かしして寝不足になってしまう。限度を考えないといけないですね。(笑)

青木 私などは特にビジネスではなくて趣味でやっていますから、やはり時間がルーズになつてしまふんですね。これはデメリットでしょうかね。でも楽しんだからメリットともいえる。(笑)

今岡 これも考え方によつてはデメリットかもしれませんが、あるお医者さんがホーム



真野龍海氏 ryumeno@yenus/dti.ne.jp

ページを開設したところ、本業以外の仕事は格段に増えてしまったと言っていました。病氣や治療方法に関する質問をお受けしたところ、いろいろなレベルの質問が入り、なかには人生相談まで入ってきてしまい、全部回答するにはあらためて調べないといけないこととか、医療以外のことまで書かなくてはいけないことがいっぱい、まあ勉強にはなるし相手も喜んでくれるのだけれども、困ったことだと嘆いていました。

インターネットのここが問題

司会 ずっと利点についてばかりお話を伺ってきましたが、そろそろ問題点、デメリットな部分についてお話を聞きたいと思っています。

今岡 インターネットを利用していますと、情報がとにかくいっぱいあることに気がつきます。ではそれがどれだけ信頼できる情報なのか、私は元のページに戻って、その人が

どういう人間か、どういう会社か、全部確かめてからその情報を評価することにしていきます。どうもインターネットの情報は余り信用できるものがないんです。

青木 ホームページの数が五億とも六億とも言われていますから、確かに本当に信頼できる情報はわずかといえます。おもしろ半分に利用している人がほとんどですから、三文記事的な暇つぶしのものばかりと思ってい

います。
真野 ですから検索がインターネットの一番の醍醐味なのです。どのように、どのような順番で検索してゆくか、これがすべてを決めてしまうのです。
(以下次号)



本紙編集チーフ(司会)
長谷川岱潤

上人然法 絵伝

(大本山増上寺蔵)

一般に残欠二卷本あるいは増上寺本といわれる法然上人絵伝がある。

現存する絵伝中、最も古いものとされ、国の重要文化財に指定されている。

寺伝によると、詞書は後二条天皇の宸翰で梶井宮法親王が書き継いだものとあり、絵は土佐吉光といわれている。

絵はいきいきと描写され、鎌倉時代を代表する絵巻の一つである。

本誌では2001年の表紙を飾るものとして、この貴重な絵伝より、ひとつひとつ抜き出して、こうと考え、1月号、「菩提寺修学の図」あたりより「牛車」を選んだ。

寺院紀行

板木・葦子

圓通寺

撮影／夕力才力邦彦

文／真山 剛

圓通寺本尊阿彌如來陀座像。定朝作と伝えられている



益子、と聞いて皆さんは何を連想されるだろうか。厚手でどっしりした陶器、益子焼きを思い出されるに違いない。窯元が三百八十もある益子は栃木県の南西に位置し、同じく焼き物で有名な茨城県笠間^{かさま}に隣り合う山間の町である。

益子焼きの始まりは江戸時代末期に遡るが、その名を全国に、いや世界にまで知らしめたのは、民芸運動を推進した濱田庄司が大正十三年にこの地に移住してからである。「京都で道をみつけ、英国で始まり、沖縄で学び、益子で育った」と書き残すこの第一回の無形文化財保持者である陶芸家、濱田庄司がいなければ益子の名がこれほど有名になることはなかったかもしれない。

春と秋の益子大陶器市には全国から三十万人もの人が集まる。二年前に行ったことがあるが、中央の目抜き通りはまるで原宿の竹下通りや巣鴨^{すま}のとげ抜き地蔵通り^{じざうどおり}なみで、人にぶつからずには一メートルも歩けない程の混雑となる。

この陶器の町益子だが、浄土宗の歴史を緬^{ひま}く時に忘れてはならない名刹がある。その名を大沢山虎溪院圓通寺という。

圓通寺は浄土宗鎮西派名越流^{なごえりゅう}の大本山で、かつては全国に五百八の末寺を持つ大寺院であった。

ここで少し浄土宗の歴史に触れよう。浄土宗は法然上人が承安五(一二七五)年に開宗したが、その教えは弟子である弁長上人^{べんちやう}が鎮



益子駅に聳える塔。益子焼きの人気で春秋の市には多くの観光客がこの駅を訪れる。

西派として、証空上人が西山派として、親鸞聖人が浄土真宗として継承した。

この弁長上人の鎮西派の流れを汲むのが良忠上人であり、元祖法然上人、二祖弁長上人、三祖良忠上人が現浄土宗の基盤を築いた。三祖良忠上人には多くの弟子がいたが、その中でも突出した六人の弟子が、京都三流、関東三流と呼ばれる各流をおこしたのである。

一条流（然空）、木幡流（慈心）、三条流（道光）が京都三流。

白旗流（寂慧）、藤田流（性心）、名越流（尊観）が関東三流である。結果的にはこの六流の中の白旗流が明治時代になって、名越流を吸収して現在の浄土宗が確立したのである。

他の流が自然消滅したり、あるいは他流に吸収されたりしたが、その勢力を維持し続けたのが名越流と白旗流である。名越流は東北を中心にその勢力を伸ばし、室町時代には如来寺、成徳寺、専称寺（いずれも福島県の浜通り）、そしてこの圓通寺をして四大本山となし、多くの名僧を育てた。なかでも袋中上人と呼ばれる良定上人は、名越流の伝法を受けさらに増上寺で白旗流の伝法も受け、浄土宗に多くの足跡を残している。

この名越流が白旗流に吸収されるのは明治に入ってからのこと
で、名越独立事件と呼ばれる係争が起きたりもした。もともと東北

三百八十もの窯元がある益子だが、
その中で一番大きいのがこの「つが
もと」



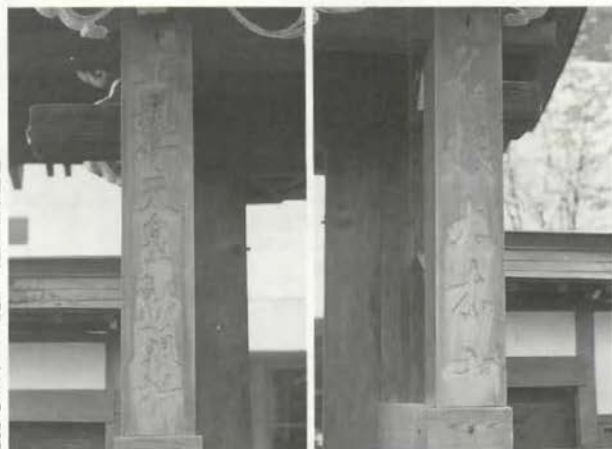


圓通寺表門、いくどかの天災にも焼失せず残った四脚門。旧国宝で現在は重要文化財になっている

に多くの末寺を持つ名越流ではあったが、芝増上寺を拠点とする白旗流は江戸を中心にその勢力を広げていて、大きな目で見ればこの吸収はやむを得ないことなのかもしれない。とはいえ、名越流の流れを汲む寺院は東京にもかなり残っていて、名越流の奥深さを物語っている。

さて、この名越流の総本山ともいえる圓通寺だが、勢力を誇ったが故に明治五年の廃仏毀釈で多くの伽藍や寺宝を失ってしまった。また、共產思想が強い地域でもあり、戦後は農地解放ばかりか山林解放もあり、かつての総本山の面影はなくなってしまった。全盛期には八万坪の境内と三十二万坪の外苑を持ち、また大沢文庫と呼ばれる学問所には三十八の学寮が軒を連ね、全国から人が集まっていた。その規模は足利学校や金沢文庫に勝るとも劣らないものだった。

この名刹圓通寺がその存続までも危ぶまれたのが大正五年前後だという。廃寺寸前までいったこの名刹を救ったのが先々代の大島彦立住職だった。彦立住職は日露戦争当時の海軍布教師という職に就いたのである。誤解のないように補足するが、布教師といっても浄土宗の教えを伝える訳ではなく、仏教に基づく精神訓話で軍人魂を育てたのである。この報酬を圓通寺の経済基盤とし、何とか立て直したのである。今もその名残で大角岑生海軍大将の額が圓通寺の応接間には飾ってある。大島良彦現住職はこの額の「人法一体」を座



山門（通用門）に掲げられた、「名越
大本山」と「正親町天皇勅願所」の札

右の銘としている。さて、現住職の名前が出たところで、今の圓通寺に目を向けてみよう。

益子町大沢にある圓通寺の境内は現在約六千坪。小高い山の麓の境内は木々で覆われ静かな佇まいだ。県道から入っていくと正面には通用門が聳えている。「名越大本山」と「正親町天皇勅願所」の札が掲げられているその門を右手にして少し回り込むと、元国宝で、今は国の重要文化財に指定されている表門が右手にあらわれる。圓通寺の寺格を感じさせる堂々たる四脚門だ。

その門から本堂に向かう。正面の階段手前の左右には特別養護老人ホームと老人ホームの棟が向かい合う。階段を上ると正面に本堂が姿をあらわす。本堂に向かって左手には宝物殿、右手には書院と庫裡。そして書院の前には地域の防火用水用の池がある。

階段を上がったすぐ左手には願かけ夢観音像が立っている。若い人の水子供養や老人のぼけ封じなどといった様々な願いをかなえてくれる観音像で、地下には鎌倉時代の阿弥陀仏が祀られ、納骨堂でありながらミニギャラリーにもなるユニークな施設だ。

その脇には地藏堂、その裏手には十数件しかない檀家の墓が並ぶ。そこから階段を上ると圓通寺の開山上人から歴代上人の墓がきれいに並んでいる。そこから坂を上ると、一切経堂である二重塔が聳えている。これは県の重要文化財だ。さらに左上方に登ると県の

史跡指定前方後円墳入定塚古墳がある。

そして書院裏手には見事な庭園が広がる。ちょうどその中央辺りに観音像が立っているが、その地下には檀信徒ではないが住職と関係のある方々の納骨堂がある。ちなみにその庭園の上に開山堂、茶室を建てるのが住職の夢だ。

さて、この境内散歩で圓通寺の境内の様子が伝わったであろうか。しかし、さらに圓通寺の施設が他にある。

表門を右手にさらに奥に進むと、左手の丘にちよつとした広場をはさんだ二つの建物が並んでいる。昨年春に町中から移転してきた保育所と、新設のデイサービスセンター（老人を昼間だけ預かる施設）である。さらにこの二棟から道路をはさんで盲人の老人ホームが建っている。

この福祉施設も圓通寺の施設である。つまり合わせると、子供のための施設が一つ、老人のための施設四つが圓通寺境内で運営されているのである。これまでこの企画で多くのお寺を回らせていたが、これだけの施設を持つ寺院はここが初めてである。住職にその背景をお伺いした。

「私の父である先代は、住職をしながら兵器工業新聞（現日刊工業新聞）の編集局にも籍を置いていました。気骨のある人で権力に屈することなく、参謀本部の嘱託員時代には主張を曲げず、そのせい



益子氏が仕えた宇都宮氏の歴代墓
陵。三十二の墓が並んでいる



本堂脇の階段をあげると一切経堂が
見え、手前に鐘が置かれている



か赤紙で戦地にやられました。戦場でお経をあげると言われても、従軍僧でなく単なる召集兵と断ったり、頑ななまでに実直で芯の通った人でした。

その父が戦後に無事復員、民生委員や地元の諸役に就かせてもらったようです。その頃、戦争により身寄りを無くした子供や老人が日本中にあふれました。国もそうした人々への援助の手を差し伸べましたが、老人よりも将来を担う子供の保護を優先せざるを得なかったのです。

そうしたこともあり、先代は特に老人福祉に力を注いだのです。

とはいえ、当時は福祉に援助金など出ませんし、末寺はあったものの圓通寺には檀家もほとんどありませんから、生活は大変だったようです。ですから身内を福祉施設の職員にして給料を得て、何とかしていました」

圓通寺第五十八世大島良彦住職は、いきさつをこう語る。

もちろん、先代彦信住職がそうした行政の都合だけで動いた訳ではない。もともと児童教化や社会福祉を学んでいたからである。さらに先代住職の姉、現住職にとっては伯母に当たるが、この伯母の協力も大きかったという。先代住職が戦地へ赴いている間、寺の切り盛りから託児所も面倒を見、「この伯母がいなければ私は僧侶になっっていなかったでしょう」と現住職に言わせしめるほど、圓通寺

慈子の古刹西明寺。真言宗の寺院で
栄枯盛衰を見てきた伽藍が今も残る



に貢献をした方である。塔婆の書き方や宴席での裏方の仕事など現住職はこの伯母から色々な事を学んだという。そうした環境の中、現住職も社会学への道を歩むことになる。

もともと大島住職は中学時代から部活動を活発に行い、バスケットボール部と気象観測部を創部したという。真岡高校時代にはバスケットでならし、卒業時には当時学生ナンバー1の立教大学はもちろん、慶応大学、早稲田大学といったところからもスカウトされた。その立派な体軀を見れば大いに納得する。しかし、名刹圓通寺の跡取り息子である。大正大学へ入学、社会学を学ぶ道を選ぶ。そして、社会福祉の現場に実際に自分の身を置いて、世間と寺院の関係をとらえ続けてきたのである。

現在、大島住職は浄土宗の社会局長という重責にあると同時に、地元の保育、少年指導、福祉に深く関わっている。かつての大檀林の名刹は、こうした先代と現住職二代にわたる地道な活動の中で、地域寺院として地元のあらゆる人々に開かれた寺院となっているのである。取材を無事済ませた後、こうした寺院のあり方に大いなる興味を持ったことを付け加えて、今年初の寺院紀行を終わらせていただくことにする。

(ルポライター)



大角孝生海軍大將の額。大島住職の座右の銘で応接間に飾ってある

聖道門しょうどうもんはこれ汝が有縁うえんの行、浄土門というはわれらが有縁の行、これをもつてかれを難なんずべからず、かれをもつてこれを難なんずべからず。

【三心義】

聖道門はあなたにとって縁の深い行、

浄土門は私たちにとって縁の深い行なのです。

ですから、浄土門の立場から聖道門を非難したり、聖道門の立場から浄土門を非難してはなりません。

それぞれの立場

「そんなの駄目だ！」

自分なりに思案をめぐらせ、相談、提案したことが、相手によってあっさりと、バツサリと斬り捨てられた時のショックは大きい。斬った側は気に留めていなくても、斬られた側は辛いもの。同じ否定するにも、もう少しその仕方ってものがあるでしょ、と嘯み付きたくもなる。ショックを受ける側に立つのはもちろんイヤだが、しかし、いつ、与える側に自分が回ってしまうかもしれないから、受けたショックは忘れず（恨み心としてでなく）に昇華したい。

ところで、自分の存在意義なり、考え方なりを正当化するためには二つの方法があると思う。

一つはどこまでも相手を否定していくやり方。相手が根を上げれば自分の正当性が認められたことになる。

もう一つは、あくまで自分の立場は相手と違うことを理解してもらい、また自分も相手の立場をよく理解し、双方の存立を目指すやり方である。

前者は穩当とはいひ難い。往々にして喧嘩になることも。意見が食い違つた際、双方の社会的地位や年齢などが離れていると、下の者は泣き寝入りとなつてしまふ。冒頭の例がそうだ。しかしこうしたケースでは、正当性が認められたと思つてゐるのは勝つた（と思つてゐる）側だけで、負けた側は心のうちでは認めてはいないものである。当然、シコリが残り、その後事も事は円滑には進みにくい。

後者は、少なくとも自分の度量が相手より大きくなければならぬといふ条件が必要となるため難しい面もある。しかし、このやり方のほうが、結果的には自分の正当性の高さをアピールすることにつながりやすい。感情的にならずにこの方法が取れば理想的だ。

仏教の究極的目標のための教えを幾つか横に並べ、單なる客観的価値付けをして「あれか、これか」と選ぶ方法を法然上人はとらなかつた。まして、念仏以外の教え、修行を根底から否定することなどしなかつた。「念仏最勝」の最大の根拠は「阿弥陀仏の本願行だから」ということだが、しかし「凡夫にとつて」という「私の立場」

が、実はその最大根拠の価値を高めることにさえ貢献している。先ほどの後者のやり方である。

上人が、「凡夫である私に有縁」という立場から、浄土門を、そして「念仏最勝」を提唱されたことは、決して「相手にとって有縁の」聖道門を、根底から否定していることにはならないのである。弟子たちにも、他宗の僧とそうしたことでは論戦を交わしてはならないと、口すっぱく戒められてきた。

「私の立場」を断固として崩すことがなかったからこそ、「相手の立場」はそのままに、その存在意識を損なうことなく、自らの正当性を強烈に主張し、多方面からコンセンサスを得る結果となったのだ。

上人は政治的戦略としてそうした方法をとったわけではあるまいが、処世術としても得るところ大ではなかろうか。

(小村 正孝)

連載

『くすり箱』

お屠蘇

薬剤師

市川真人

お屠蘇^{とそ}は、新しい年の出発に当たって、体内における新陳代謝の滞りをきれいにし、健康で、長寿をはかるという意味でつくられたものです。

屠とは一年の災疫（災難・疫病等）、悪気（悪い空気等）を葬り、蘇^よとは、福寿円満なる新年を迎え、蘇^よみ返らすという意味です。ようは、お屠蘇は「延壽屠蘇散^{えんじゅとそさん}」といわれ、これを飲めば健康で長生きをする、不老不死の薬と言われています。

お屠蘇は今から一二〇〇年位前に中国より日本の朝廷へのお土産として届けられました。現在、本家である中国では正月に屠蘇を飲む風習はなくなっているようですが、日本に引きつがれています。唐時代の中国の医学の大家である孫思邈^{そんしぱく}が書いた「屠蘇飲論」の中に「その処方^{せうふ}は薬八味（八種類の薬草）を用い合わせて剤となす。故に亦た八神散^{はっしんさん}と名づく。大黃^{たいかう}・山椒^{さんしょう}・桔梗^{ききやう}・桂枝^{けいし}・防風^{ぼうふう}・白朮^{しやく}・虎杖^{こしょう}・附子^{ぶし}を砕いて赤い絹の袋に入れ、

酒に浸し、飲む。一人これを飲めば、一家病氣なく、一家拳って飲めば、一里四方病氣に罹る者なし」と書かれています。この八神散を孫思邈が毎年除夜の日に近所へ配ったことから始まったことです。八神散の名前も年を経るうちに忘れ去られてしまい、「屠蘇飲論」の屠蘇が残り、今につづいているようです。

配合される薬草も時代によって変わってきて、今多くは桂枝ニッキ（発汗剤）、白朮オケラ（利尿剤）、防風ボーファー（発汗剤）、山椒（振興剤）機能の沈衰したものを振起復興させる薬）、桔梗（去痰・排膿剤）、陳皮ちんぴ（ミカンの皮）（健胃・消化・整腸剤）、生姜（健胃・駆水剤）、丁香ういぎょう（健胃・消化・整腸剤）、茴香ういぎょう（健胃・消化・整腸剤）等がつかわれています。江戸時代までは強力な瀉剤の大黃（病毒を洗い濯ぐ）と、強力な補剤の附子しよしととりかぶとの根（代謝機能の減退したのを振起復興させ

る薬）とが入っていました。近代になって「病がなくて大黃や附子のような強い薬を用いるのは不可なり」として屠蘇から除かれてしまいました。

お屠蘇の飲み方は、昔より、一家揃って飲む時は、幼児、少女、少年と年少者より飲み、年長者へと廻して飲むことになっています。子供は新年を自覚し、又、昔は薬草しか病氣を治してくれるものはありませんでした。臭く、苦く、まずい薬を飲まなければ病氣は治りません。その時のためにも慣れる練習ではなかったのではないかと思います。又、正月三日または五日位までの年始客には必ず屠蘇酒を出して饗しました。

今年は二十一世紀の始まる年。平成十三年（二〇〇一年）は病氣にならず、一家、親戚、知人、一里四方全員元気で良い年になりますように、是非一家皆様に屠蘇酒をお飲み下さい。本年が良い年になりますように、心よりお祈り申し上げます。



謹賀新年

平成十三年

浄土門主
総本山知恩院門跡第八十六世

中村康隆

大本山

増上寺

大本山 金戒光明寺
法主

坪井俊映

大本山 百萬遍知恩寺
法主

大野忍敬

大本山 清浄華院
法主

大田秀三

大本山 善導寺
法主

民谷隆誠

大本山

光明寺

大本山

善光寺大本願

謹賀新年

平成十三年

浄土宗宗務総長

水谷 幸正

浄土宗宗議会議長

江口 定信

〒279・0001 浦安市堀江四―一四―二

浄土宗東京事務所長

袖山 榮真

〒280・0865 長野市西後町一五六八 十念寺

大吉寺住職

成田 有恒

〒154・0007 世田谷区世田谷四―七―九

浄土宗神奈川教区教区長

清水 嚴矩

〒286・0003 鎌倉市材木座六一七―一九
大本山 光明寺中
電話〇四六七(二二)二四七六

平成大事業勸募懇請中
御影堂屋根替大修理完成
ひきつづき阿弥陀堂新築再建

美作 誕生寺

〒799・0002 岡山県久米郡南町里方八〇八
TEL 〇八六七(二八)二二〇二
FAX 〇八六七(二八)二二六二

〒112・0002 東京都文京区小石川三丁目
十四番六号

無量山 傳通院

TEL 〇三(三八)四一三七〇一(代表)

定義如来

西方寺

〒286・0003 仙台市青葉区大倉字上下一
電話〇三(三三)九三三〇一一
Homepage: <http://www.comminet.or.jp/people/johg4/>
E-mail: johg4@sch.comminet.or.jp

謹賀新年

平成十三年

清水湊 貝付毘沙門天

忠高山
實相寺

〒400-0000 静岡市鷹司二丁目四番十八号

玉桂山
華陽院

電話〇五四・三五一・三六七三
FAX〇五四・二五二・三六五六

学校法人 大乘淑徳学園
淑徳大学 淑徳短期大学
理事長・総長

長谷川良昭

〒104-0065 東京都板橋区前野町五―五―二

佛教主義学校 連盟会会長
淑徳学園中学・高校校長

大谷 壽雄

総本山知恩院

おてつき運動 推進部長

東海林 良雲

塩釜市雲上寺

浄土宗大願寺住職
浄土宗宗議会議員

神谷 英敏

〒902-0002 函館市銭亀町一〇一

花巻 廣隆寺

谷地 玄雅

正覺寺

住職 江藤英賢

〒955-0003 武生市京町二―一―八
TEL (〇七七八) 二二二・一三二九
FAX (〇七七八) 二二二・六一一七

謹賀新年

平成十三年

和歌山・西念寺

武田 齋彦

〒642-0004 海間市阪井四六六

宗議会議員

河本 眞龍

〒303-0004 萩市柵屋町四二二
電話〇八三八・二二・一五八七

宗議会議員

浄土宗政研究会々長

熊谷 靖彦

佐賀教区本應寺

宗議会議員

小田 義海

九品院住職 佐世保南無の会（主管）
〒892-0004 佐世保市大和町一八八一
TEL〇九五六（三三三）七六七六

青森教区
青岩寺

青山 淨晃

弘経寺住職

金田 進徳

〒302-0004 茨城県取手市白山二一九一二八

孤峰山 蓮馨寺
（ハルノケイニ）

諸願成就 吞龍上人奉祀

久米 原恒久

〒350-0004 川越市連雀町七・一
電話〇四九二（二二二）〇〇四三
FAX〇四九二（二二六）〇六七六

浄土寺

阿川 文正

〒100-0004 東京都港区赤坂四一三一五
電話〇三（三三八）三六三〇

謹賀新年

平成十三年

明福寺

福井 豊信

〒132-0001 江戸川区江戸川三十八-一

伊勢教区

山下 法文

松阪市樹敬寺

愚鈍院
住職 こつぶがや文庫主

中村 眞道

〒580-0801 仙台市若林区新寺三十二-十七
電話〇二二(二五〇)六〇五七

宗源寺

齋藤 价洲

函館
称名寺

〒040-0801 函館市船味町十八-十四
電話〇一三八(二二二)〇五七四

勝願寺

〒540-0801 埼玉県鴻巣市本町八-一三二

骨仏の寺

一心寺

〒540-0801 大阪市天王寺区逢阪二-八・六九
電話〇六(六七七)〇四四四

晴雲寺住職

塚田 弘導

〒540-0801 平塚市立野町六-五
電話〇四六三(三二)二六三八

謹賀新年

平成十三年

梅窓院

住職

中島真成

東京都港区青山

2-26-38

電話 03 (3404) 8447

ホームページ

<http://www.baisouin.or.jp/>

願行寺住職

佐藤成順

〒100-0001 品川区南品川二-11-121

貞松院住職

山田和雄

〒100-0001 諏訪市諏訪二-16-21
電話 〇二六六(五二)一九七〇

天光院

真野龍海

<http://www.evam.ne.jp/tenkojin>
ryumeno@yenus.dti.ne.jp

光円寺住職

佐藤良純

〒112-0002 文京区小石川四-12-18

横浜 大光院

宮林昭彦

浄土宗東京教区教区長
光取寺住職

大室了皓

〒140-0001 品川区上大崎一-15-10
電話 〇三(三四四)八三八四

浄土宗と浄土真宗

わかりやすい
法然上人御法語解説

月刊「浄土」好評連載がついに一冊に!

差出人は法然さん

浄土真宗の御門徒さんの家を訪ねますと、驚かされることはその家の仏壇の立派さです。その大きさもさることながら、内側全体を金箔に覆われた仏壇の荘厳さに圧倒されます。

仏壇には金仏壇と唐木仏壇の二種類がありますが、浄土真宗では主に金仏壇を用い、他の宗派では決まっていはいないのです。が、主に唐木仏壇を用いているようです。(関西から西では金仏壇が多く、関東から北では唐木仏壇が多いという傾向もあり

ます)

金仏壇とは生地に漆を塗り、金箔を張りつめた仏壇で、極楽浄土の荘厳さを表現することから、見事な細工が施されているのが特徴で、値段も相当するものがあります。一方唐木仏壇は木の素材をそのまま生かした仏壇で、磨かれた木目の美しさが特徴です。材質は黒檀、紫檀、花梨、くるみ、桑、樺などを用います。

浄土宗では独自の特徴というものは別段なく、仏壇の位置付

その8 仏壇

けも、ご本尊である阿弥陀仏を供養するとともに、ご先祖との対話の場所という言い方が一般的ですが、浄土真宗では亡くなった人を供養する場所というのはなく、むしろ生きている私たちの生活の中心として、いたらない私たちを育て導いてくださる阿弥陀仏のお慈悲に会う場所という位置付けをしているようです。ですから浄土真宗ではお仏壇に、仏飯はおあげします。が、お水やお茶、霊供膳はあげないのです。

(つづく)



袖山榮輝
林田康順
小村正孝

法然上人鑽仰会・刊

定価600円(内税)
送料別

お申し込みは
法然上人鑽仰会
〒105-0011
東京都港区芝公園4-7-4
明照会館
Tel: 03-3578-6947



FORUM

浄土の広場

「浄土の広場」では

読者の自由な参加をお待ちしています。

詩、エッセイ、短歌、俳句、川柳、書評、映画評、

TVウォッチング、紀行文、その他創作等。

あるいは会員各寺院での催しの告知、報告など。
どしどし編集部にお寄せ下さい。

浄土誌上句会

● 枯野

〔特選〕

枯野来て枯野へ帰る僧一人

石原

新

法事でもあるのだろうか。僧が一人、枯野を来て枯野を帰って行く。ただそれだけだが点在する農家と、枯野にぼつんと立つ菩提寺が見えてくる。カ行音の配置がリズムを助けていて心地よい。

〔佳作〕

露座仏に日射しあまねき枯野かな

片桐てい女

枯野道眼やとしき道祖神

中島富士子

枯野原日没近き古戦場

吉里ひとみ

● 葱

〔特選〕

葱刻む小振りな妻の背の老いし

大場

清

人間年を取れば、誰だつて背が縮まってくるものだが、この妻はもともと小振りな人のだろう。それが背も丸くなつてきている。

選者=増田河郎子

〈特選〉

医者帰り太く真白き大根買う

大村 和代

●自由題

〈佳作〉

食事の用意に余念のない妻の姿を見る作者の
目は、言うまでもなくやさしい。

嶋田喜代子

白葱のとりとうまし鍋の中

山本美代子

一坪の畑に育ちし葱かぶら

加藤 政男

〈佳作〉

しばらく医者通いを続けている。買い物は
その都度してくるのだろう。今日は太く真っ
白な大根である。この「太く」と「真白き」
が、今日の医師の診断を暗示しているのだ。
心が少しはずんでいる。

ばつかりと別れの言葉冬木立

矢野 玉枝

穂芒のなびくに惜しまざる光

池田 伊吹

観音の千手さまよう名残りの蚊

蘭田 郁子

自由題

季題

浄土誌上句会の
お知らせ

参加作品

編集部選

枯野

灯が点り枯野の果ての無人駅
大枯野玩具のごとき列車消ゆ
鳥影もなく茫洋と大枯野
枯野焚く巫女の袴の緋色増し
枯野原高速道の工事急
堤より山につづける枯野かな
一命を残す枯野の名無し草
枯野来て壺みなぬくし陶の郷
山里をぐるり囲んで枯野かな
しわぶきを飛ばしてゆけり枯野道
枯野来て枯れる人には程遠く
枯野屋軍歌をつたう同期かな
枯野きてしつかりメガネなど拭きぬ

山本のり子
細田初枝
河合富美枝
嶋田喜代子
松田匡弘
金谷友江
大場清
山本美代子
中島一子
佐藤雅子
長尾子浪
北川弘子
増田信子

締切・一月二十日
発表・『浄土』四月号

選者・増田河郎子（『南風』主宰）
応募方法

●いずれの題とも数の制限はありません。

●特選各1名・佳作各3名

葉書に俳句（何句でも可）と、住所・氏名を必ずお書き下
さい。

宛先

〒105-0011 東京都港区芝公園4-1-7 4 明照会館内
月刊『浄土』誌上句会係

葱

朝抜きし葱をみやげに志摩の人
三世代土鍋の湯気や葱太し
土付きしまま深谷から葱届く
梵鐘の余韻に昏る葱畑
ふかぶかと地の幸にふれ根深引く
疫病神焼葱の香に退散す
葱きぎむ亡母思はれし厨事
葱焼いてのんどに巻くを教はりぬ
食通の鬼半喰る根深かな
都会にも田舎の名残り葱畑
束ねつつ明日売る葱を選りてをり
行僧のごとく並んで葱坊主

自由題

初明り堂の仏は亡父に似て
賞受けし菊の揃ひて枯れゆけり
鐘ひとつ追ふかに落葉しぐれけり
一夜吹きすてに落葉の山となる
おだやかな日和の山々眠りけり
木枯や語りべ集ふ煉瓦館
どの部屋も菊それぞれに菊の顔
波滞の紅葉且つ散るいろは坂
障子貼る指の冷たき冬隣
山葵田は釣瓶落となりゆけり
無骨者なれど菊花の衣着る
ちようと良き握り心地の柿を取る

大村和代
山本のり子
細田初枝
河合富美枝
松田匡弘
片桐てい女
中島富士子
金谷友江
吉里ひとみ
中島一子
佐藤雅子
長尾子浪

山本のり子
細田初枝
河合富美枝
松田匡弘
中島富士子
金谷友江
山本美代子
吉里ひとみ
中島一子
佐藤雅子
西井正
野村昭輝

マンガで楽しい仏教用語

漫画・藤井ひろし

工夫

この「くふう」は私たちの生活にしっかりとけ込んでいる仏教用語の一つでしょう。

もとは禪宗、坐禅をくんで悟りを求める仏教の宗派ですが、禪の修行に心をうち向けること。あるいは、そもそも答えようのない難題、これを公案といいますが、これに対し思慮の尽きるまで考えることを言います。転じて方法や手段をあれこれ考えることを言うようになったのですが、工夫の正しい解説になってしまいましたね。



編集後記

世紀末終わってみたら十二年 岱潤

先日テレフォン相談をしていた時、「七福神詣は一月の何日までにお参りするの、昔からの正式なお参りの仕方ですか」という質問を受けた。

「七日までですよ」と、すんなり答えれば良かったのですが、筆者のひねた性格のせいか、そのとき思わず「昔からの正式というのなら、ぜひ旧暦の元旦から七日の間にお参り下さい。元来室町時代に生まれ江戸時代に盛んになった行事ですから、新暦で日にちをこたわっても何の意味もありません」などと余計なことを言っ

ました。

今年はいよいよ二十一世紀だと心機一転することも悪くはないが、所詮これもキリスト教暦にちなんだものであり、世紀末やミレニアムなどと暗くなる必要はキリスト教徒でなければ関係ないはずだし、まして今年が平成十三年だろうが、十二という数字を縁起悪がる必要など、我々仏教徒にはまったく関係がないはずだ。

仏教はもともと「こたわるな」と教えている。数字にそして俗信、迷信にこたわることはやめましょう。(長)

ホームページ <http://www.jodo.ne.jp>

編集チーフ
編集スタッフ

長谷川岱潤

斎藤光道

村田洋一

佐山哲郎

間川彰道

編集顧問

大室了皓

浄土 六十七巻 一月号 頒価六百円

年会費六千円

昭和十年五月二十日第三種郵便物認可

印刷 平成十一年十二月二十日

発行 平成十二年一月一日

発行人 真野龍海

編集人 宮林昭彦

印刷所 株式会社 シーティーイー

〒一〇五〇〇一一

東京都港区芝公園四七 四明照会館内

発行所 法然上人鑽仰会

電話 〇三(五七八)六九四七

FAX 〇三(五七八)七〇三六

振替 〇〇一八〇八八二八七



道路工事中



消火器



歩行者横断禁止



火気厳禁



止まれ



雷注意



夜間近し、静かに



足元注意



踏切あり



注意口



釘・錐

住友海上

代理店

安心と安全をお届けするのは、
このマークです。



さわもな



われ物注意



安全第一



学童注意



取り扱い注意

ここにあるマークの意味、わかりますか？暮らしの中には、注意を呼びかけるマークが、ほんと、たくさんあるんですね。生活のいろんな場面で、みんなが注意し合って、ルールを守っている。だからこそ、私たちは毎日を穏やかに、安らかに過ごせます。でも、万が一のときのために、覚えておいて頂きたいマークがあります。それは、あなたに安心と安全をお届けする、このマークです。保険のことは、あなたの街にある住友海上代理店へ。

安心と安全をお届けする



住友海上

〒104-8252 東京都中央区新川2-27-2 TEL:03-3297-1111(大代表)

『浄土』特選頒布会

ご注文・お問い合わせは法然
上人鑽仰会まで。

電話：03-3578-6947

FAX：03-3578-7036

肌身はなさず、
仏さまの御加護を

水晶 数珠

水晶腕念珠

- 水晶腕念珠 ① 6ミリ珠・M(16センチ)2,200円
② 6ミリ珠・L(18センチ)2,500円

- 水晶数珠 プレスレッド ③ 6ミリ珠・M(16センチ)2,200円
④ 6ミリ珠・L(18センチ)2,500円
⑤ 8ミリ珠・M(16センチ)2,700円
⑥ 8ミリ珠・L(18センチ)3,000円

- ・申し込からお届までおよそ3週間です。
- ・送料は一個口あたり300円です。また別途消費税がかかります。
- ・支払いは商品のお届時の代金引き替えです。
- ・商品の品質に関しては万全を期しておりますが、配送時の事故、不良品、誤配送などについては送料当方負担でお取り替えいたします。

水晶数珠プレスレッド



仏壇用宗旨布教額
家庭の仏壇にぴったりの布教額です

- 大(320×183ミリ)
1,260円(送料別)
小(273×142ミリ)
480円(送料別)

選択集十六章之図

選択本願念仏集を絵で解きました

豪華額装入り(585×465ミリ)
20,000円(税・送料別)解説書入り
(お届まで4週間かかります)

